

季節のこと、春・夏・秋・冬の巡って行く様や、気象のことにはかなり関心を持つております。この間、堺市の私の住むあたりでもケーブルTVが利用できるようになり、契約を募集したのですが、二十四時間気象ニュースを流す番組があるというのを知り、そのために契約した次第でした。

子供のころから好きでしたが、社会人になってからは、特に天候が気になります。ことに仕事が、商品を雨に濡らしてはいけない

とか、雪のための道路事情悪化による荷物の到着の遅れなどがないようにといつたことが保証できているからでしょうか。

二月はじめに大阪でも雪が降りました。ちょうど車で東京に出かける時でしたので、天気予報を聞いて雪がまだ降ることを知り、四輪駆動の車に乗り換えました。案の定、名阪国道も名

だしましたが、坂道を登れば四苦八苦している車を横目に、さしたる苦労もなく東京へ到着することができました。

神自動車道も途中で通行止めになりましたが、大渋滞となりま

せん。

このように天気予報は役に立っているのですが、景

気の予報も天気予報のよう

な気が持ちかと思います。

まさに日本経済も、お手

本の時代、指針のない

時代とも言えましょう。

自分なりに思つたり感じたこともありますが、決定的ことは、まだわかりま

ります。

たどりついた時に、先が見

つかず原点に戻ることは非常に困難

になりますが昔からの考え方、過去において成功した

やり方であります。私も最近

いつづく原点に戻ることの

大切さ、そして昔から言わ

れている、倫理とか努力の大切さを実感します。

たしかに、一生懸命や

ば、おてんとさまはじっくり

見てくれるんだよ、とい

う言葉の響きには、とても

安心感があります。努力さ

れていたりは報われる、そ

れは、何を基本として考

え、指針として捉えてゆけ

ばよいのでしょうか。

特にこの数年来、バブル

とは言え、今はなんとか

このような中で、われわれ

は、何を基本として考

え、指針として捉えてゆけ

ばよいのでしょうか。

ただ、正しいとか間違つ

ているとかを別にして、皆

さんそれぞれの考え方をも

とに、今捉え、行動なさ

れていることだけは、間違つ

ていることです。そして、経営の違いは、その考

え方の違いと言つても

間違つた事実でしょ

う。

考え方というの、今まで経験してきたことや、

考え方というの、今まで絏験してきたことや、

考え方というの、今まで絏験

■ 隨想 ■

ある日突然、自然が怒った。まったく予測もなしに、何故こんな時に思うほど無情で、自然に怒りを覚えたことはない。

震災の前年の年は、われわれ業界は、仕事の減少に伴い、私の会社も売り上げ減少と受注減の苦しみを味わうことになり、今年は、とりあえず仕事の確保優先と思い、営業に奔走し、ある程度のめどが出来、心を引き締め、「今年はやるぞ」と心に言い聞かせながらの新しい年でした。

忘れるこの出来ない出来事が、その日に来た。私の家は神戸でも西の所で、あまり被害はなかったのでですが、その時の恐怖心は口では表せないものでした。電気は消え、情報を得るために、とりあえずラジオと、放送では「強い地震で

ろは被害状況がわかりませんので、ただ静かにお待ち下さい」と繰り返すばかり。天には何台もの車、消防車、パトカーと、すごい暴音を出しています。

「あれから二年」

(株)三木ダクト工業社長 備瀬 正信

まずは会社にと思い出勤し、状況を見たところ普通ですしきだるまになっていた。私は大変と神戸に電話すれば、呼び出し音は鳴れど誰も出ません。体から血が引くような怖さを胸に

しました。まさか神戸の町が火だるまになっているとは。これは大変と神戸に電話すれば、呼び出し音は鳴れど誰も出ません。体から血が引くような怖さを胸に

ました。その中を、人は背中に荷物袋(後に流行になりました)、手には給水バケツと、それはそれは、まるで

普段の日より五倍くらい時間をかけ、知人宅へ着けば、家は全壊、知人は何処かなどと思いながら電気をつけてますと、つきます。電話で、手には給水バケツと、それはそれは、まるで

戦争映画を見ているようになります。震災から半年。震災からまだ恐怖心が増すばかりでした。

日々の間に次から次へと亡くながら請け負い、最初は戸

で、まずは安心しました。それから半年。震災からまだ恐怖心が増すばかりでした。

あれから二年。震災は人間で、なんともいえないや

いをはせて待っていました。それが、その日の日をボランティア的な日稼ぎに明け暮れ、時には仕事がなくなりながら歩き回って、無事な姿を確認

ました。その後、震災からまだ恐怖心が増すばかりでした。

間で私の母をはじめ、友

い、随分と仕事をさせて頂

はありませんが、今のところが、市内に近づく

思いました。それで束の間、次々と友

人生とは何かと思うほど振

き、急場凌ぎにはありがた

いことでした。

ですが、本職のダクトの仕事は、待てど暮らせど

は、手をつけられなくなるほど忙しくなると思い、毎日

を何日から、何日からと思

いをはせて待っていました。

が、一向にその兆候が見えず、その日の日をボラン

ティア的な日稼ぎに明け

向に入つて来ません。受注

は小さな工事ばかり。大き

い見積もりをすれば、流れ

るばかり。あまりにも値段

の違いに、いったいどうな

ついるのと心配する事ば

かり。ばかりばかりで明け

暮れ、競争の世界では仕方

がないのかと自分に言い聞

かせ、自然災害は仕方がな

いと諦めることができます

が、人的災害は人が作るもの、何とか避けたいもので

す。あれから二年。震災は人々にいろんなことを教えてくれました。

あれから二年。震災は人

が、人の災害は人が作るもの、何とか避けたいもので

す。あれから二年。震災は人

が、人の災害は人が作るもの、何とか避けたいもので

す。あれから二年。震災は人